

古文「係り結びの応用（省略・流れ・逆接）」100題ドリル | 無料PDFと解答付き 問題編

組 番 氏名

【第1部】基本のおさらい+省略入門（Q1～Q20）

結び Q1. 係り結びを起こす係助詞の組み合わせとして正しいものを選び。

ア ぞ・なむ・や・か・こそ

イ は・も・しか・のみ・ばかり

ウ ば・と・ど・に・を

エ な・そ・かな・ばや

結び Q2. 「ぞ・なむ・や・か」を受けた結びの活用形として正しいものを選び。

ア 終止形

イ 連体形

ウ 已然形

エ 命令形

結び Q3. 「こそ」を受けた結びの活用形として正しいものを選び。

ア 連体形

イ 終止形

ウ 已然形

エ 未然形

結び Q4. 係助詞「ぞ・なむ」の意味として正しいものを選び。

ア 疑問

イ 反語

ウ 願望

エ 強意（強調）

結び Q5. 係助詞「や・か」の意味として正しいものを選び。

ア 強意

イ 疑問・反語

ウ 打消

エ 使役

結び Q6. 次の歌で、係助詞「ぞ」を受けた結びの語を選び。

白露に風の吹きしく秋の野はつらぬきとめぬ玉ぞ散りける（文屋朝康・百人一首）

ア 「ける」

イ 「吹きしく」

ウ 「とめぬ」

エ 「散り」

結び Q7. 次の文の「ものぐるほしけれ」の活用形を選び。

（つれづれなるままに、…）あやうこそものぐるほしけれ。（徒然草・序段）

ア 終止形

イ 連体形

ウ 已然形

エ 命令形

結び Q8. 次の文で「ける」が連体形になっている理由を選び。

花なむ咲きける。

ア 過去の文だから

イ 係助詞「なむ」の結びだから

ウ 和歌だから

エ 「咲き」が連用形だから

結び Q9. 次の文の説明として正しいものを選び。

月こそ見ゆれ。

ア 「見ゆれ」は命令形である

イ 「こそ」は疑問を表す

ウ 「見ゆれ」は連体形である

エ 「こそ」を受けて「見ゆ」が已然形「見ゆれ」で結ばれている

結び Q10. 係り結びの「結び」とは何か。正しいものを選び。

ア 文頭に置かれる感動詞

イ 係助詞そのもの

ウ 係助詞を受けて、文末（句末）で連体形・已然形になる語

エ 文の主語になる語

省略 Q11. 「結びの省略」とはどのような現象か。正しいものを選び。

ア 係助詞のほうが省かれる

イ 結びの語が省かれて文中に現れない

ウ 主語が省かれる

エ 助詞がすべて省かれる

省略 Q12. 次の文で省略されている語を選び。

いづくの山にや。

ア 「あらむ」

イ 「言ふ」

ウ 「見ゆ」

エ 「来」

省略 Q13. 「～にや」の下に補う「あらむ」の「む」の活用形を選べ。

ア 終止形

イ 連体形

ウ 已然形

エ 未然形

省略 Q14. 「にや・にか」の「に」の文法的説明として正しいものを選べ。

ア 格助詞

イ 完了の助動詞「ぬ」の連用形

ウ 断定の助動詞「なり」の連用形

エ 接続助詞

省略 Q15. 「結びの省略」は別名で何と呼ばれるか。

ア 結びの流れ

イ 結びの逆接

ウ 結びの転成

エ 結びの消滅

省略 Q16. 結びの省略が起こる理由として正しいものを選べ。

ア 言わなくても補って分かる定型表現だから

イ 文字数の制限があったから

ウ 文法の誤りが広まったから

エ 漢文の影響だから

結び Q17. 次の文の係助詞を選べ。

名をば、さぬきの造となむいひける。(竹取物語・冒頭)

ア 「を」

イ 「ば」

ウ 「なむ」

エ 「ける」

結び Q18. 上と同じ文で、「なむ」の結びの語とその活用形の組み合わせとして正しいものを選び。

名をば、さぬきの造となむいひける。(竹取物語・冒頭)

ア 「いひ」・連用形

イ 「ける」・連体形

ウ 「ける」・已然形

エ 結びは省略されている

省略 Q19. 次の文で省略されている語として最も自然なものを選び。

昔の人の歌とぞ。

ア 「言ふ (言ひける)」

イ 「あり」

ウ 「見る」

エ 「行く」

省略 Q20. 「とぞ。」「となむ。」の下に「言ふ」系の語を補う理由として正しいものを選び。

ア 「と」が引用を表す格助詞だから

イ 「ぞ」が動詞だから

ウ 係助詞は動詞の一種だから

エ 和歌の決まりだから

【第2部】 結びの省略 (Q21~Q50)

省略 Q21. 次の文で省略されている語を選び。

これも前世の契りにや。

ア 「あらむ」

イ 「ありけり」

ウ 「あれ」

エ 「あらず」

省略 Q22. 上と同じ文の現代語訳として正しいものを選び。

これも前世の契りにや。

ア 前世からの約束であってほしい

イ 前世からの約束であろうか

ウ 前世からの約束のはずがない

エ 前世からの約束であった

省略 Q23. 次の文の結びについての説明として正しいものを選び。

この花をなむ、撫子と言ひける。

ア 結びは省略されている

イ 「言ひ」が結びで連用形

ウ 「ける」が連体形で、正しく結ばれている

エ 「ける」は已然形になっている

省略 Q24. 次の文で省略されている語を選び。

いとめでたき花にこそ。

ア 「あらむ」

イ 「あらめ」

ウ 「あれど」

エ 「ありける」

省略 Q25. 「～にこそ。」に「あらめ」(已然形)を補う理由として正しいものを選び。

ア 「こそ」の結びは已然形だから

イ 過去の文だから

ウ 命令の文だから

エ 「こそ」の結びは連体形だから

省略 Q26. 次の文で省略されている語として最も自然なものを選び。

翁、いと悲しと思ひけりとなむ。

ア 「あらむ」

イ 「あらめ」

ウ 「見ゆ」

エ 「言ひ伝へたる」(言ふ系の語)

省略 Q27. 次の文の「とや」の下に補う語として最も自然なものを選び。

鬼になりけりとや。

ア 「あらむ」

イ 「言ふ」「聞く」など

ウ 「行く」

エ 「来」

省略 Q28. 「にや」には「あらむ」、「とぞ」には「言ふ」を補う。この使い分けの理由として正しいものを選び。

ア 「に」は断定の助動詞の連用形なので「あり」系を、「と」は引用の格助詞なので「言ふ」系を補う

イ どちらも「あり」を補ってよい

ウ どちらも「言ふ」を補ってよい

エ 補う語は常に「侍り」と決まっている

省略 Q29. 次の文の「や」の意味を選び。

もし鬼にやあらむ。

ア 強意

イ 反語と決まっている

ウ 疑問

エ 願望

省略 Q30. 次の文の「む」の活用形を選べ。

月の都の人にやあらむ。

ア 終止形

イ 已然形

ウ 未然形

エ 連体形

省略 Q31. 結びの省略を見抜く手がかりとして正しいものを選べ。

ア 係助詞が文中にないこと

イ 係助詞があるのに、それを受ける結びの語が見当たらないこと

ウ 文が長いこと

エ 主語が書かれていないこと

省略 Q32. 次の文の現代語訳として正しいものを選べ。

年のころ、二十（はたち）ばかりにや。

ア 二十歳になってほしい

イ 二十歳のはずがない

ウ ちょうど二十歳であった

エ 二十歳くらいであろうか

省略 Q33. 次の文で省略されている語を選べ。

これ、誰（た）がしわざにか。

ア 「言ふ」

イ 「聞く」

ウ 「あらむ」

エ 「来」

省略 Q34. 上と同じ文の現代語訳として正しいものを選び。

これ、誰（た）がしわざにか。

ア 誰のしわざでもない

イ 誰のしわざであろうか

ウ 誰かにやってほしい

エ 誰のしわざだと言った

省略 Q35. 「結びの省略」についての説明として正しいものを選び。

ア 文法的な誤りで、悪文とされる

イ 後世の写し間違いで生じた

ウ 読み手が補うことを前提にした、確立した定型表現である

エ 会話文では使われない

省略 Q36. 次の文を、省略を補って訳したものとして正しいものを選び。

これも仏の御しるしにこそ。

ア 仏のおしるしと言った

イ 仏のおしるしであるはずがない

ウ 仏のおしるしであってはならない

エ 仏のおしるしであるのだろう

省略 Q37. 「にやあらむ」「にかあらむ」の訳の型として正しいものを選び。

ア ～であろうか

イ ～してしまった

ウ ～にちがいない

エ ～するつもりだ

省略 Q38. 結びの省略が特に多く見られる場面として正しいものを選び。

ア 漢文の訓読文

イ 会話文や心中文（心の中で思った内容）

ウ 和歌の枕詞

エ 法律の文章

省略 Q39. 次の文で省略されている語を選び。

「はや帰りたまひね。」となむ。

ア 「あらむ」

イ 「あらめ」

ウ 「言ひける」

エ 「来にける」

省略 Q40. 「とぞ言ふ。」と省略せずに書いたとき、「言ふ」の活用形を選び。

ア 未然形

イ 終止形

ウ 已然形

エ 連体形（「ぞ」の結び）

省略 Q41. 物語の末尾によくある「…となむ語り伝へたとや。」の、最後の「とや」に省略されている語を選び。

ア 「言ふ」「聞く」など

イ 「あらず」

ウ 「見ゆ」

エ 「おはす」

省略 Q42. 「にや」の「に」（断定の助動詞「なり」の連用形）が接続する語として正しいものを選び。

ア 動詞の未然形

イ 体言（名詞）や連体形

ウ 已然形だけ

エ 命令形

省略 Q43. 次の文の「けむ」の活用形を選べ。

前世の報いにやありけむ。

ア 終止形

イ 已然形

ウ 連体形（「や」の結び）

エ 命令形

省略 Q44. 次の文は結びの省略か。正しい説明を選べ。

花や咲く。

ア 省略である。「あらむ」を補う

イ 省略である。「言ふ」を補う

ウ 結びの流れである

エ 省略ではない。「咲く」（連体形）が結びとしてそろっている

省略 Q45. 次の文で起きている現象を選べ。

これは、狐のしわざにこそ。

ア 結びの省略

イ 結びの流れ

ウ 逆接用法

エ もぞ・もこそ

省略 Q46. 「とぞ。」で文が終わるときの訳し方として最も適切なものを選べ。

ア ～してほしい

イ ～ということだ

ウ ～のはずがない

エ ～しなさい

省略 Q47. 下に補う語が「あらめ」になるものを選び。

ア ～にや。

イ ～にか。

ウ ～にこそ。

エ ～とぞ。

省略 Q48. 次の文の現代語訳として正しいものを選び。

これ、現（うつつ）にや。

ア これは現実であってほしい

イ これは現実にちがいない

ウ これは現実であろうか

エ これは現実だと言った

省略 Q49. 「静かに月を見る。」の「に」と「夢にや。」の「に」の説明として正しいものを選び。

ア どちらも断定の助動詞

イ どちらも格助詞

ウ 前者は断定の助動詞、後者は形容動詞の語尾

エ 前者は形容動詞「静かなり」の連用形の活用語尾、後者は断定の助動詞「なり」の連用形

省略 Q50. 省略されている語の組み合わせとして正しいものを選び。

ア 「にや」→「あらむ」、「とぞ」→「言ふ」

イ 「にや」→「言ふ」、「とぞ」→「あらむ」

ウ どちらも「あらむ」

エ どちらも「言ふ」

【第3部】 結びの流れ・「こそ」の逆接・文中の疑問 (Q51~Q80)

流れ Q51. 「結びの流れ」とはどのような現象か。正しいものを選び。

ア 結びの語が省かれて文中に現れない

イ 結びになるはずの語に接続助詞などが付き、本来の活用形で言い切らずに文が後ろへ続いていく

ウ 「こそ」が已然形で結んだあとに逆接で文が続く

エ 係助詞が二つ重なって使われる

流れ Q52. 次の文で起きている現象を選び。

雨ぞ降りけれど、なほ出で立ちぬ。

ア 結びの省略

イ 逆接用法

ウ 結びの流れ

エ 正しい係り結びで完結している

流れ Q53. 上と同じ文で、結びの流れを起こした接続助詞を選び。

雨ぞ降りけれど、なほ出で立ちぬ。

ア 「を」

イ 「て」

ウ 「ば」

エ 「ど」

流れ Q54. 次の文で起きている現象を選び。

これなむ都鳥と言ふを聞きて

ア 結びの流れ

イ 結びの省略

ウ 逆接用法

エ もぞ・もこそ

流れ Q55. 「結びの省略」と「結びの流れ」の違いとして正しいものを選び。

ア 同じ現象の別名である

イ 省略は結びの語そのものが現れない。流れは結びになるはずの語はあるが、本来の形で完結しない

ウ 省略は和歌だけ、流れは散文だけに起こる

エ 省略は誤文で、流れは正文である

流れ Q56. 次の文で、本来の結びの形（流れなかった場合の形）を選び。

風なむ吹きければ、舟出ださず。

ア 吹きけれ

イ 吹きけり

ウ 吹きける

エ 吹かまし

流れ Q57. 結びの流れを起こしやすい語として正しいものを選び。

ア 接続助詞「ば・ど・ども・に」など

イ 格助詞「の・が」

ウ 終助詞「かな」

エ 副助詞「だに」

流れ Q58. 次の文の結びについての説明として正しいものを選び。

翁なむ、竹を取りつつ、よろづのことに使ひける。

ア 結びは省略されている

イ 「取りつつ」のところで流れている

ウ 「つつ」は係助詞である

エ 「使ひける」が連体形で、正しく結ばれている

流れ Q59. 次の文で起きている現象を選べ。

母なむ、いみじう泣きけるを、見るもいと悲し。

ア 正しい係り結びで完結している

イ 結びの流れ

ウ 結びの省略

エ 逆接用法

流れ Q60. 「結びの流れ」についての説明として正しいものを選べ。

ア 書き手の文法ミスである

イ 後世の誤写で生じた

ウ 誤りではない。言葉が続いていく中で自然に起こる現象である

エ 現代語にしか見られない

流れ Q61. 次のA・Bの違いの説明として正しいものを選べ。

A 花ぞ咲きける。 B 花ぞ咲きければ、庭に出でぬ。

ア Aは係り結びが完結、Bは「ば」が付いて結びが流れている

イ どちらも結びの省略

ウ どちらも結びの流れ

エ Aが流れで、Bが完結している

流れ Q62. 読んでいる文で結びの流れに出会ったときの対処として最も適切なものを選べ。

ア 係助詞を無視して捨てる

イ 文をそこで必ず切って読む

ウ 必ず反語に訳す

エ 結びが流れて文が続いていると捉え、文意を最後まで追う

逆接 Q63. 「こそ+已然形」のあとに「、」で文が続くとき、多くなる意味を選べ。

ア 順接 (～ので)

イ 逆接 (～が・～けれども)

ウ 並列 (～たり)

エ 比喩 (～のように)

逆接 Q64. 次の文の「中垣こそあれ」の訳として正しいものを選べ。

中垣こそあれ、一つ家のやうなれば、望みて預かれるなり。(土佐日記)

ア 中垣があるので

イ 中垣がないので

ウ 中垣はあるけれども

エ 中垣があってほしい

逆接 Q65. 上と同じ文の「あれ」の活用形を選べ。

中垣こそあれ、一つ家のやうなれば、望みて預かれるなり。(土佐日記)

ア 已然形

イ 命令形

ウ 連体形

エ 終止形

逆接 Q66. 次の文の現代語訳として正しいものを選べ。

男こそ泣きたれ、女はさらに泣かず。

ア 男は泣かず、女が泣いた

イ 男が泣くと困る

ウ 男も女も泣いた

エ 男は泣いたが、女はまったく泣かなかった

逆接 Q67. 上と同じ文の「たれ」の文法的説明として正しいものを選び。

男こそ泣きたれ、女はさらに泣かず。

- ア 過去の助動詞「たり」の連体形
- イ 完了（存続）の助動詞「たり」の已然形
- ウ 断定の助動詞「たり」の命令形
- エ 形容詞の活用語尾

逆接 Q68. 次の文の現代語訳として正しいものを選び。

声こそ聞こゆれ、姿は見えず。

- ア 声が聞こえると困る
- イ 声も姿もはっきりしている
- ウ 声は聞こえるが、姿は見えない
- エ 声が聞こえてほしい

逆接 Q69. 逆接用法のとき、係り結び自体はどうなっているか。正しいものを選び。

- ア 崩れていない。已然形で正しく結ばれた上で、文が後ろへ続いている
- イ 完全に崩れている
- ウ 結びが省略されている
- エ 結びが連体形になっている

逆接 Q70. 「こそ＋已然形」のあとに文が続くとき、意味は必ず逆接になるか。正しいものを選び。

- ア 必ず逆接になる
- イ 必ず順接になる
- ウ 訳さなくてよい
- エ 逆接が多いが、必ずではない。文脈で判断する

逆接 Q71. 次の文の説明として正しいものを選び。

これこそ求めつる山なれ。

- ア 逆接用法である
- イ 文末の已然形「なれ」で完結しており、純粋な強意である
- ウ 結びの流れである
- エ 結びの省略である

逆接 Q72. 「こそ」の逆接用法を見抜くコツとして最も適切なものを選び。

- ア 係助詞を消して読む
- イ 必ず「しかし」と訳す
- ウ 已然形のところでいったん区切り、後ろに文が続くかを確認する
- エ 文末から逆に読む

疑問 Q73. 次の歌の「来し」の「し」の活用形を選び。

君や来し我や行きけむおもほえず夢か現か寝てか覚めてか（在原業平・伊勢物語／古今和歌集）

- ア 終止形
- イ 已然形
- ウ 未然形
- エ 連体形

疑問 Q74. 上と同じ歌の「君や来し」の「や」の意味を選び。

君や来し我や行きけむおもほえず夢か現か寝てか覚めてか（在原業平・伊勢物語／古今和歌集）

- ア 疑問
- イ 強意
- ウ 願望
- エ 断定

疑問 Q75. 次の文の「近き」の活用形を選べ。

いづれの山か天に近き。

ア 終止形

イ 連体形

ウ 已然形

エ 語幹

疑問 Q76. 上と同じ文の現代語訳として正しいものを選べ。

いづれの山か天に近き。

ア どの山も天に近い

イ 山は天に近いはずがない

ウ どの山が天に近いのか

エ 天に近い山があってほしい

疑問 Q77. 次の文の現代語訳として正しいものを選べ。

たれかこの歌をよみける。

ア 誰がこの歌を詠んだのか

イ 誰もこの歌を詠まない

ウ 誰かがこの歌を詠んでほしい

エ この歌は誰にも詠めない

疑問 Q78. 次の文の「かは」の意味を選べ。

花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは。(徒然草)

ア 疑問

イ 反語

ウ 強意

エ 願望

疑問 Q79. 反語の訳し方として正しいものを選び。

ア ~してほしい

イ ~だろう

ウ ~しなさい

エ ~か、いや~ない

疑問 Q80. 「や・か」が疑問か反語かを定める手がかりとして最も適切なものを選び。

ア 文の長さ

イ 係助詞の位置

ウ 文脈（あとに打消・否定的な内容が想定されるかどうか）

エ 音の響き

もぞもこそ Q81. 次の文の現代語訳として正しいものを選び。

雨もぞ降る。

ア 雨がきつと降る

イ 雨が降ってほしい

ウ 雨が降ると困る

エ 雨は降らないだろう

もぞもこそ Q82. 「もぞ・もこそ」が表す意味として正しいものを選び。

ア 懸念（~すると困る・~すると大変だ）

イ 強意（訳さない）

ウ 過去の回想

エ 打消

もぞもこそ Q83. 次の文の現代語訳として正しいものを選び。

人もこそ聞け。

ア 人が聞いてくれるとうれしい

イ 人はまったく聞かない

ウ 人が聞くにちがいない

エ 人が聞くと困る

もぞもこそ Q84. 「雨もぞ降る。」の「降る」の活用形を選び。

雨もぞ降る。

ア 終止形

イ 連体形（「もぞ」の「ぞ」の結び）

ウ 已然形

エ 未然形

もぞもこそ Q85. 「人もこそ聞け。」の「聞け」の活用形を選び。

人もこそ聞け。

ア 命令形

イ 終止形

ウ 已然形（「もこそ」の「こそ」の結び）

エ 未然形

もぞもこそ Q86. 次の文の現代語訳として正しいものを選び。

風もこそ吹け。

ア 風が吹くと困る

イ 風がきっと吹く

ウ 風が吹いてほしい

エ 風は吹かない

もぞもこそ Q87. 「もぞ・もこそ」の訳でやりがちな誤りとして正しいものを選び。

ア 「も」を「また」と訳すこと

イ 連体形と已然形を区別すること

ウ 必ず疑問で訳すこと

エ 単なる強意として訳してしまうこと。「～すると困る」という懸念で訳すのが正しい

総合 Q88. 次の文の「なむ」の文法的説明として正しいものを選び。

花なむ咲きける。

ア 願望の終助詞

イ 係助詞（結び「ける」が連体形になっている）

ウ 完了の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」

エ ナ変動詞の活用語尾の一部

総合 Q89. 次の文の「なむ」の文法的説明として正しいものを選び。

いつしか梅咲かなむ。

ア 係助詞

イ 完了「ぬ」＋推量「む」

ウ 願望の終助詞（未然形「咲か」に接続。「～してほしい」）

エ 接続助詞

総合 Q90. 次の文の「なむ」の文法的説明として正しいものを選び。

この花、やがて散りなむ。

ア 完了の助動詞「ぬ」の未然形「な」＋推量の助動詞「む」（「きっと散ってしまうだろう」）

イ 係助詞

ウ 願望の終助詞

エ 過去の助動詞

総合 Q91. 「なむ」を識別するときの第一の手がかりとして正しいものを選び。

ア 文の長さを見る

イ 和歌かどうかを見る

ウ 訳してから決める

エ 直前の語の活用形（接続）を確認する

総合 Q92. 次の文で起きている現象を選び。

これは夢にや。

ア 結びの流れ

イ 結びの省略（「あらむ」を補う）

ウ 逆接用法

エ もぞ・もこそ

総合 Q93. 次の文で起きている現象を選び。

橋をなむ渡りけるに、日暮れぬ。

ア 結びの省略

イ 正しい係り結びで完結している

ウ 結びの流れ（結び「ける」に「に」が付いて文が続く）

エ 逆接用法

総合 Q94. 次の文で起きている現象を選び。

花こそ散りぬれ、実はなほ枝に残れり。

ア 「こそ+已然形」の逆接用法

イ 結びの省略

ウ 結びの流れ

エ 願望表現

総合 Q95. 次の文の説明として正しいものを選び。

鳥もぞ立つ。

ア 鳥がきつと飛び立つ (強意)

イ 鳥が飛び立ってほしい (願望)

ウ 鳥は飛び立たない (打消)

エ 鳥が飛び立つと困る (懸念)

総合 Q96. 傍線部「にや」の文法的説明として正しいものを選び。(「これも前世の契りにや。」の「にや」)

ア 完了の助動詞+疑問の終助詞

イ 格助詞+間投助詞

ウ 断定の助動詞「なり」の連用形+係助詞「や」。下に「あらむ」が省略されている

エ 接続助詞+係助詞

総合 Q97. 次の文の「こそ」の用法の説明として正しいものを選び。

中垣こそあれ、一つ家のやうなれば、(土佐日記)

ア 結びの省略

イ 「こそ」+已然形「あれ」で結ばれたあとに文が続く、逆接の用法

ウ 結びの流れ

エ 係り結びの誤用

総合 Q98. 次の文の「なむ」の説明として正しいものを選び。

名をば、さぬきの造となむいひける。(竹取物語・冒頭)

ア 係助詞。結びは連体形「ける」

イ 願望の終助詞

ウ 完了「ぬ」+推量「む」

エ ナ変動詞の活用語尾+「む」

総合 Q99. 係り結びの応用問題を解くとき、最初にすべきこととして正しいものを選び。

ア 現代語訳を先に作る

イ 主語をすべて補う

ウ 助動詞をすべて品詞分解する

エ 文中に係助詞（ぞ・なむ・や・か・こそ）があるかを探す

総合 Q100. 用語と現象の組み合わせとして正しいものを選び。

ア 「にや（あらむ）」＝結びの流れ、「ければ、」＝結びの省略

イ 「とぞ。」＝逆接用法、「もぞ」＝願望

ウ 「にや（あらむ）」＝結びの省略、結びに「ば・ど」が付いて続く＝結びの流れ、「こそ…已然形、」＝逆接、「もぞ・もこそ」＝懸念

エ すべて強意で訳せばよい